

## 『北海道 LGBT フォーラムに参加』

連合北海道は、1月23日（土）にオンラインフォーラムとして開催された「北海道 LGBT フォーラム ～性の多様性について考える～」（法務省人権啓発活動地方委託事業/主催：北海道）に、パネリストとして参加しました。

※「LGBT」とは、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（性同一性障害を含む心と出生時の性別が一致しない人）のそれぞれの頭文字で、性的少数者の総称などとして使われています。

幹メンタルクリニックの池田院長からは、「性別違和への理解」と題して、LGBTのT（トランスジェンダー＝性同一性障害）に関して、戸籍の性別を変更できる条件や、治療方法と当事者が直面する課題などの講演がありました。

性転換手術は保険適用となったが、ほとんどの患者さんが選択するホルモン療法は、保



幹メンタルクリニック 池田院長（右）

後半のパネルディスカッションでは、連合北海道総合政策局小倉次長から、いわゆるLGBT当事者は各種調査によると8%程度（左利きや血液型のAB型の人と同じくらいの比率）はいること、労働組合はLGBT当事者の方たちを理解・支援する人=ALLY（アライ）でありたいこと、連合が作成したLGBTやSOGI（性的指向性自認）のチラシや、書籍「LGBTとハラスメント」の紹介などがされました。

加藤弁護士からは、令和2年6月に施行された労働施策総合推進法指針に、パワーハラスメントの一例として、「労働者の性的指向・性自認や病歴、不妊治療等の機微な個人情報について、当該労働者の了解を得ずに他の労働者に暴露すること」が明記され、事業主、管理職としてLGBT（性的少数者）についても理解を深め、法律を守る重要性が伝えられました。

ハラスメントは人権侵害であり、連合北海道はこれからもあらゆるハラスメントの防止に向けて取り組みを続けていきます。

開催内容



**講演 「性別違和の理解」**

10:05～10:45

いけだ ひろし  
池田 官司 氏

医療法人北仁会 幹メンタルクリニック 院長

札幌医科大学医学部医学科卒業後、札幌医科大学大学院医学研究科内科系神経精神医学博士課程を修了。日本精神神経学会、日本神経精神薬理学会、日本総合病院精神医学会等の学会に所属し、GID（性同一性障害）学会の理事や北海道精神神経学会の幹事を務めている。

パネルディスカッション

テーマ 「学校で、職場で、地域で～知っていますか？LGBTの悩みごと」

10:45～11:30

《コーディネーター》  
医療法人北仁会 幹メンタルクリニック 院長 池田 官司 氏

《パネリスト》

- \*北海道合同法律事務所 弁護士 加藤 文晴 氏
- \*NPO法人北海道レインボー・リソースセンター L-Port 代表理事 中谷 衣里 氏
- \*日本労働組合総連合会 北海道連合会 総合政策局長 小倉 佳寿子 氏



険適用外であることや、戸籍上の性を変更するには性転換手術が必須となっていることへの、国内外からの批判などについても説明がありました。

### 2. これまでの取り組み

#### (3) 関係団体との連携



- LGBT法連合会が作成したツールを加盟組合の担当者に配布
- 2017年より「東京RAINBOW PRIDE」に全国ユニオンと協力して労働相談ブースを開設

小倉次長が紹介した資料の一部